



東京大学グローバルCOEプログラム

ゲノム情報に基づく先端医療の教育研究拠点

オーダーメイド医療の実現と感染症克服を目指して

**参加無料  
事前登録不要**

GCOE 特別セミナー <キャリアパス支援セミナー> 企業・団体紹介シリーズ

# 白金キャリアプラットフォーム 第13回

ミニシンポジウム

## 日本発-日本経由-日本着の医薬品イノベーション のために ~グローバル化時代の産学官連携~

東京大学医科学研究所

1号館講堂 (港区白金台)

2013年 **3**月 **13**日 (水)

**14:30 - 17:45**

### 第一部

#### 次世代へ手渡すTorchとして~可視化された経験知とメッセージ

- **はじめに** 山川 彰夫 (世話人幹事) 東京大学医科学研究所 特任教授、学術アドバイザー長
- **講演「16年のグローバル製薬企業キャリアからのメッセージ：  
グローバル製薬企業の生きる道としてのオープンイノベーション」** (仮題)  
加藤 益弘 アストラゼネカ株式会社 取締役会長
- **講演「日本発のバイオ医薬品はなぜ生まれにくいのか」**  
浅野 茂隆 早稲田大学 教授、東京大学 名誉教授、元東大医科研病院院長
- **「コメント(題目未定)」と対話、フロアを含めた討議**  
岩崎 甫 山梨大学大学院臨床研究開発学 特任教授

### 第二部

#### 現在、そしてこれから ~将来への提言

- **講演「第一次バイオ創薬敗戦を乗り越えて」**  
宮田 満 日経BP社 医療局特命編集委員
  - **パネルの問題意識と課題提起** 山川 彰夫 (世話人幹事)
  - **パネル・ディスカッション** [パネリスト] 上記講師・コメンテーターの他、官庁より  

文部科学省産連・地域支援課	里見朋香 課長
経済産業省生物化学産業課	下田裕和 課長補佐
厚生労働省研究開発振興課治験推進室	山田雅信 室長

その他、産学関係者と調整中
- ファシリテーター： 山川彰夫、三浦有紀子 東京大学男女共同参画室 男女共同参画ディレクター  
 世話人： 山川彰夫、長村文孝 先端医療開発推進分野 教授、附属病院医療安全管理部 部長

## 【概 要】

東京大学医科学研究所&先端科学技術研究センターのグローバルCOE プログラム (GCOE) では、その2つのミッションである、グローバルな医療課題に対して取り組むことのできる世界的な広い視野を持った多様な「人財育成」と、医科学・医療領域での世界的レベルの「科学・技術・イノベーションの推進」との一環として、「白金キャリアプラットフォーム」セミナーシリーズを開催しています。

今回の第13回は、グローバルCOEプログラムが最終年度 年度末であり、このシリーズの区切りの回になります。今回は、外資系製薬会社の雄であるアストラゼネカ株式会社様のご理解と御協力を頂き、普段の回の「企業の研究開発方針の紹介とアカデミア側からのキャリアデベロップメントの為のレクチャーからなる産学の対話形式」でなく、一定のテーマに沿って産官学のステークスホルダーを集めた「ミニシンポジウム形式」で開催する事に致しました。

アストラゼネカからは取締役会長の加藤益弘様、東大医科研OBで東大名誉教授であり、G-CSFの研究から開発の立役者で、現在に至るまで活躍を続けておられる浅野茂隆先生、またメディアの立場からライフ・イノベーションに関して、報道や提言を含めたご意見を発信されている日経BP社宮田満様をお迎えして、パネル・ディスカッションを含めて、産官学の多様な立場からの、講師同士やフロアとの質疑応答・討議を行う形にする事に致しました。

企業紹介としては、アストラゼネカ株式会社の加藤取締役会長様より、ご自身の外資系製薬企業16年のご体験を踏まえて、AstraZenecaグループと日本法人の研究・開発や経営方針の方向性に加え、日本の企業や現役世代や若手・学生の今後のグローバル化社会への対応などのお話しについてもメッセージも含めてご講演をお願いしております。

AstraZenecaPLC社は、2011年の世界売り上げ高33,000 Million \$、営業利益12,800 Million \$と、常に世界5位、6位程度の規模で世界に展開するグローバル製薬企業です。本社は英国、London市に置かれていますが、1999年にイギリスのICI医薬部門を期限とするゼネカとスウェーデンを本拠としていた北欧最大の製薬会社アストラがM and Aをして誕生した、創薬から研究・開発・製造販売を手がける企業です。HPによると「優れた医療用医薬品を介して人々の健康を増進すること」をそのミッションとし、「私たちは、革新的新薬の創出という研究開発におけるイノベーションのみならず、その他のあらゆる分野で行う全ての活動におけるイノベーションを通じてこのミッションを全うしていきたいと考えています。能力と士気の高い社員、新しい働き方、さらに、医療従事者の方々が必要とされる当社製品に関する質の高い情報提供におけるテクノロジーの駆使等を通じて、日本の患者さんの健康に最も価値ある貢献を 果たすことが出来ると確信しています。」ということで、CSRへの取り組みは業界でもNo. 1といわれるほどです。「世界中の人の笑顔が見たいから、医療の「A」から「Z」まで、」というのが名称の大文字の意味とのことです。分子標的薬と抗ホルモン薬をはじめとする抗腫瘍剤と循環器薬、高脂血症治療薬で世界をリードする医薬品を持ちながら、PPI、ぜんそく薬なども主要製品として保有しています。企業紹介は加藤会長からのプレゼンテーションをお聞き頂きたいのですが、企業のサイトもご参照ください。

今回まで続けて参りましたこの白金キャンパスの「新しいプラットフォーム」は、” Filling the Gaps among different Communities” のキーワードの元、学生・若手にとってのキャリアパス支援とシニアの研究者・医療従事者と企業・団体の間の相互の産官学のインターアクションの「場」を提供し、ライフイノベーションの推進の為にステップボードとなる事も意図しておりました。企画側から、GCOEプログラムの支援で3年近く前からスタートしてから今までのreflectionを踏まえ、ご挨拶をさせて頂く予定にしております。

白金キャンパスの学生・若手をはじめとする研究者・医師・医療スタッフの他にも、東大他部局や学外のアカデミア・産業界・行政・メディアの方のご参加を歓迎致します。

事前の質問や要望があれば世話人幹事宛てお願い致します。

(文責：世話人幹事 山川彰夫 特任教授, GCOE推進委員)